



ケーススタディ:

TASSTAによる消防・ 消防団業務の高度化

はじめに:

消防署および消防団は、災害・緊急時における住民の生命・財産を守る中核的な役割を担っています。TASSTAのミッションクリティカル通信ソリューションは、現場活動の迅速化・安全性向上・組織横断的な連携強化を実現します。本ケーススタディでは、TASSTA導入による消防業務の高度化効果を紹介します。

課題:

消防活動における主な課題

迅速な初動対応:

火災・災害対応では初動の遅れが被害拡大や人命リスクに直結します。

関係機関との連携:

大規模・複合災害では、消防内部の連携に加え、警察・救急・自治体部局との情報共有と指揮系統の整理が不可欠です。

情報セキュリティ:

建築図面や傷病者情報などの個人情報を含む情報は、法令を遵守し、安全に管理・共有する必要があります。

相互運用性の確保:

異なる組織・システム間でも円滑に情報連携できる仕組みが、実効性ある災害対応を支えます。

TASSTAによる解決策

リアルタイムコミュニケーション:

TASSTAのプッシュ・トゥ・トーク (PTT) 機能により、現場隊員間および指揮本部とのリアルタイム連絡が可能となり、的確で迅速な指示伝達を実現します。

リアルタイム位置情報共有:

GPS機能により隊員の位置をリアルタイムで把握でき、最適な部隊配置・増援判断が可能になります。

関係機関連携:

警察・救急など他機関とのリアルタイム連携を可能とし、現場対応の一体化を促進します。

安全な情報共有:

暗号化されたチャット・ファイル共有により、図面や傷病者情報などを安全に共有し、個人情報保護にも対応します。



想定シナリオ:

想定シナリオ

最上階で火災が発生し、消防隊が現場活動を開始。
TASSTA端末を携行した現場指揮隊が指揮を執ります。

対応①:

初動対応

指揮隊は部隊を展開し、PTT機能を用いて建物内の隊員へリアルタイムで指示を行います。

対応②: 関係機関連携

延焼リスクを受け、警察とリアルタイム連携。住民避難および現場周辺の安全確保を実施します。

対応④: 救急連携

救急隊の到着状況を把握し、傷病者発生に備えた連携体制を構築します。

対応③: 情報共有

セキュアなサーバーから建物図面を共有し、消火戦術の立案や水栓利位置の把握に活用します。

導入効果:

対応迅速化:

初動対応時間の短縮により、被害軽減と住民の安全確保に寄与します。

組織連携:

関係機関との連携が円滑になり、災害対応全体の効率が向上します。

情報管理:

機微情報を適切に管理し、法令遵守と個人情報保護を実現します。

相互運用性:

組織横断的な通信・協調を可能にし、総合的な防災力を強化します。

TASSTAは、地域を守る消防・救急の現場に、実効性の高いデジタル基盤を提供します。